

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

令和5年 7月～9月実績

令和5年 10月～12月見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100%）
6. 調査対象期間 令和5年7～9月期実績及び令和5年10～12月期見通し
7. 調査時点 令和5年9月1日（金）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.5%	24	14.5%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について〈増加・上昇・好転〉の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

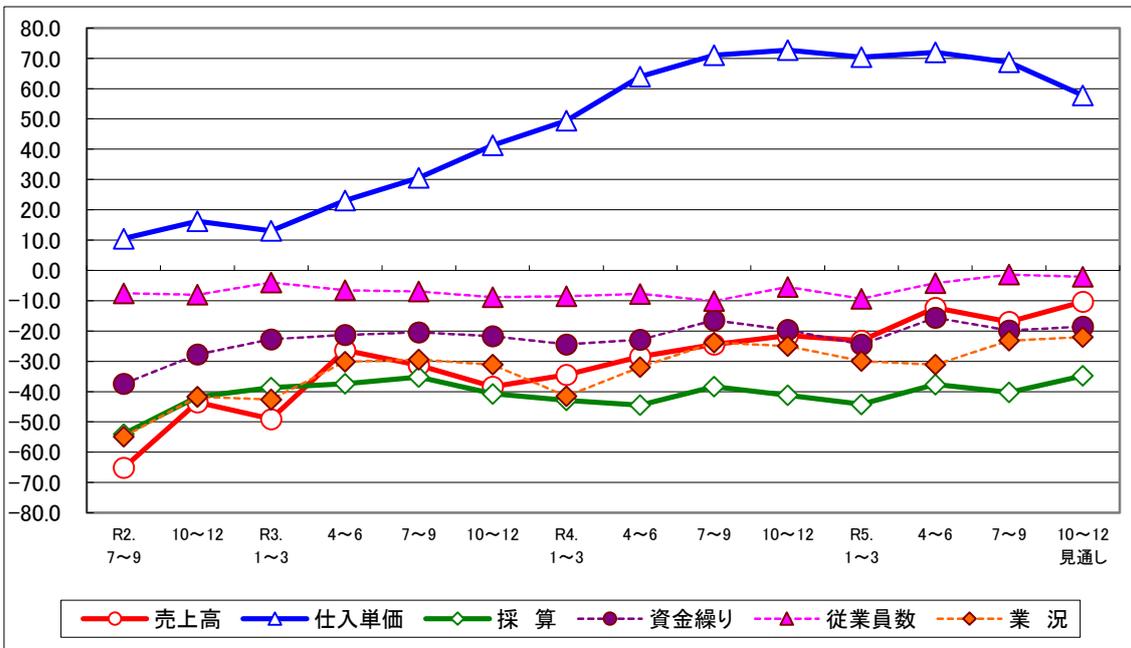
10. 分析執筆者 仁愛大学人間学部 教授、福井県立大学 名誉教授 南保勝氏

全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

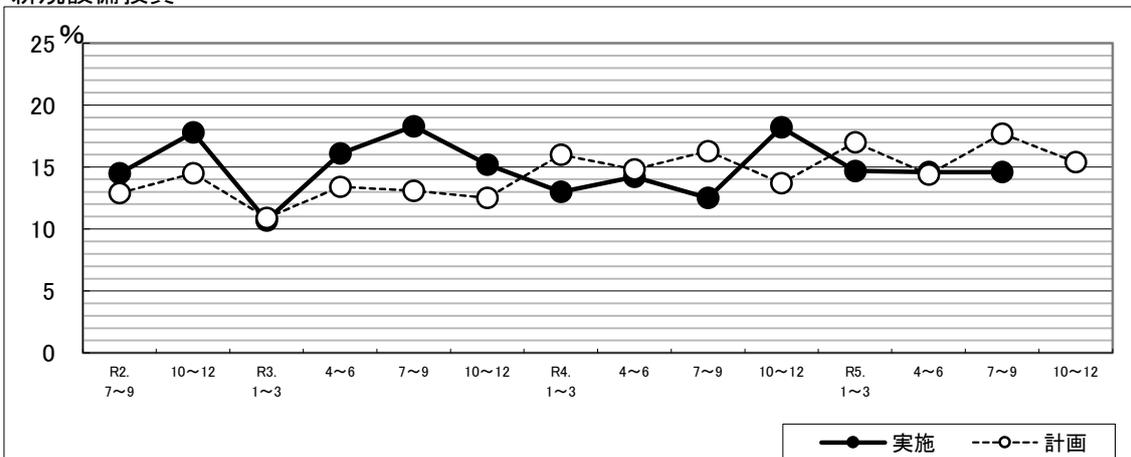
景気動向推移(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R2.7~9	▲ 65.1	10.5	▲ 54.0	▲ 37.4	▲ 7.5	▲ 54.9
10~12	▲ 43.5	16.2	▲ 41.7	▲ 27.8	▲ 8.0	▲ 41.7
R3.1~3	▲ 49.1	13.1	▲ 38.7	▲ 22.7	▲ 4.0	▲ 42.6
4~6	▲ 26.4	23.1	▲ 37.4	▲ 21.3	▲ 6.6	▲ 30.1
7~9	▲ 31.3	30.6	▲ 35.2	▲ 20.4	▲ 7.0	▲ 29.4
10~12	▲ 38.4	41.3	▲ 40.7	▲ 21.7	▲ 8.8	▲ 31.1
R4.1~3	▲ 34.5	49.4	▲ 42.9	▲ 24.4	▲ 8.5	▲ 41.5
4~6	▲ 28.5	64.0	▲ 44.5	▲ 22.9	▲ 7.7	▲ 31.9
7~9	▲ 24.5	71.0	▲ 38.4	▲ 16.5	▲ 10.1	▲ 23.8
10~12	▲ 21.5	72.7	▲ 41.2	▲ 19.6	▲ 5.5	▲ 25.0
R5.1~3	▲ 23.2	70.4	▲ 44.2	▲ 24.5	▲ 9.3	▲ 29.9
4~6	▲ 12.3	72.0	▲ 37.7	▲ 15.6	▲ 4.2	▲ 31.1
7~9	▲ 17.0	68.7	▲ 40.2	▲ 19.8	▲ 1.4	▲ 23.2
10~12見通し	▲ 10.3	57.7	▲ 34.8	▲ 18.5	▲ 2.1	▲ 22.0

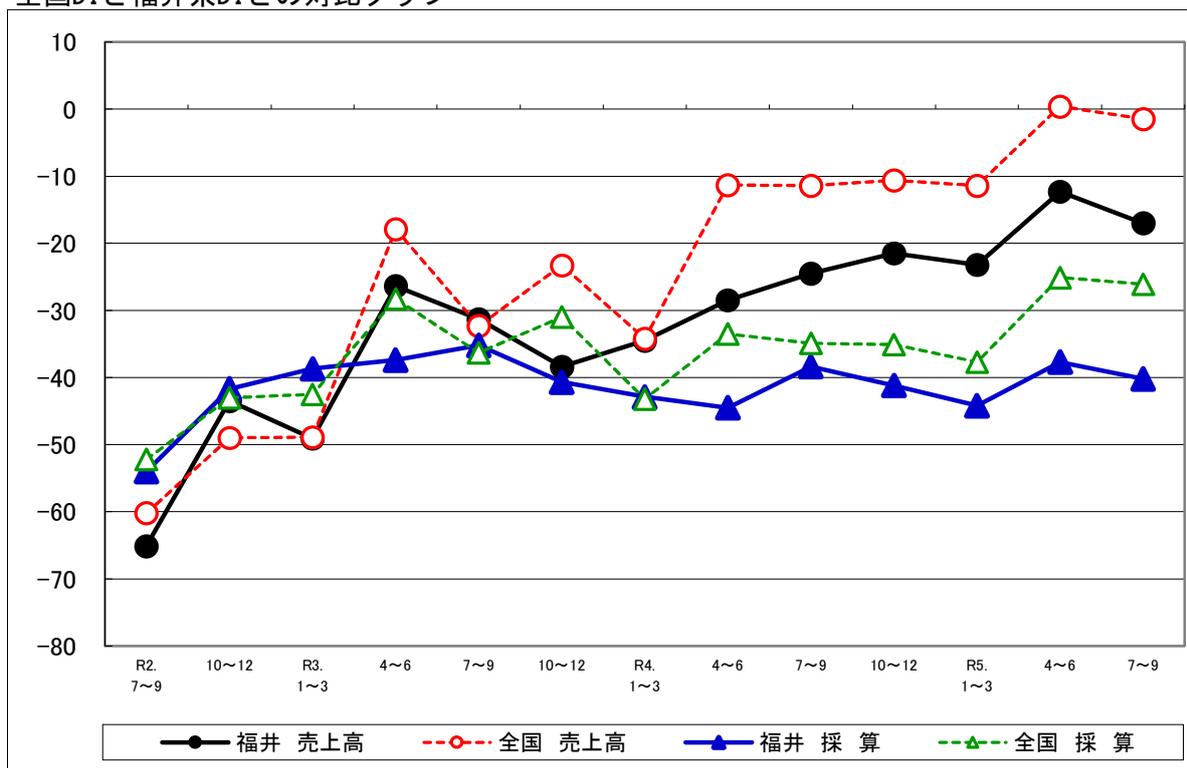
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

R5年7-9月期の福井県経済を概観すると、企業部門では、繊維がヨーロッパ向けで苦戦しているもののメガネ枠は堅調な受注・生産を維持。電子部品・デバイスも下げ止まっているほか、化学が住宅部材など一部を除き持ち直している。また、生産用機械は拡大の動きに一服感がみられる。このように、福井県製造業の業況は業種間で格差がみられ、全体では足踏みの状況にある。家計部門では、個人消費面で、ドラッグストア販売が好調、百貨店・スーパー販売も緩やかに持ち直しているほか、温泉地や観光地、飲食サービスも持ち直しているなどから、全体では持ち直している。先行きについては、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の下押し懸念、海外景気の下振れリスク、さらには物価上昇、金融資本市場の変動等、十分注意する必要がある。

こうした状況下、今期（R5年7-9月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目中3項目が改善、3項目で悪化となった。項目ごとのDI値をみると、改善した項目が、仕入単価（逆指数）の前期72.0→今期68.7、従業員数の前期▲4.2→今期▲1.4、業況の前期▲31.1→▲23.2。悪化した項目は、売上高の前期▲12.3→今期▲17.0、採算の前期▲37.7→今期▲40.2、資金繰りの前期▲15.6→今期▲19.8となっている。先行き（R5年10-12月期）については、従業員数を除く5項目で改善予測が立てられている。

一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、両項目とも全国および福井県ともに悪化傾向となっているほか、どの項目も水面下の動きであることに変わりはない。

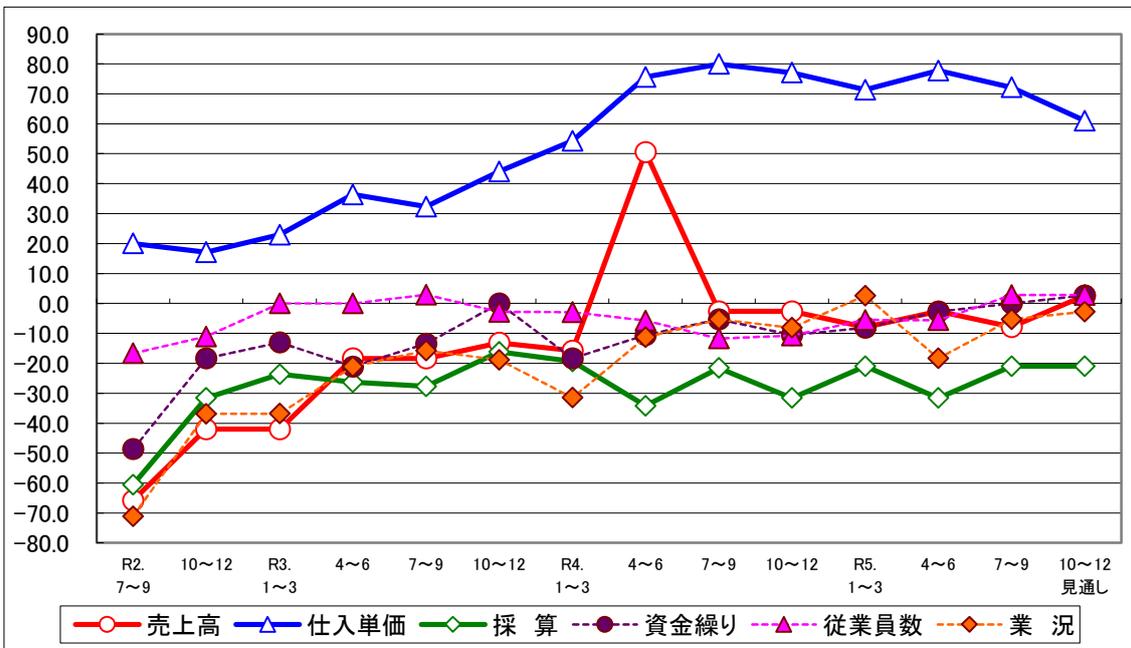
そのほか、今期の新規設備投資については、計画した企業17.7%に対し実施した企業14.6%と、計画が実施を上回っているほか、先行き（R5年10-12月期）については、何らかの投資計画を持つ企業が15.4%となり、投資マインドに大きな変化はみられない。

製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

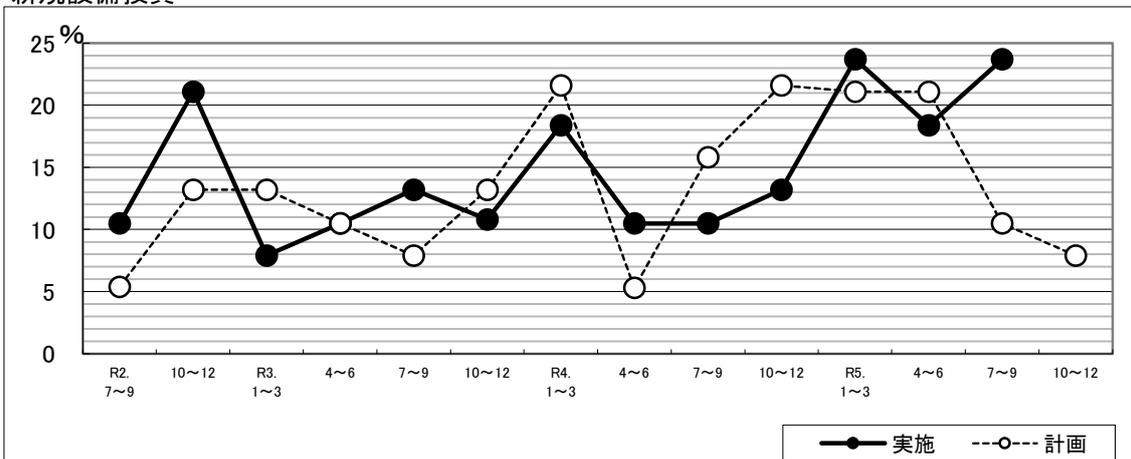
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R2.7~9	▲ 65.8	20.0	▲ 60.6	▲ 48.7	▲ 16.7	▲ 71.1
10~12	▲ 42.0	17.1	▲ 31.6	▲ 18.4	▲ 11.1	▲ 36.9
R3.1~3	▲ 42.0	22.9	▲ 23.7	▲ 13.1	0.0	▲ 36.8
4~6	▲ 18.4	36.4	▲ 26.3	▲ 21.1	0.0	▲ 21.1
7~9	▲ 18.4	32.4	▲ 27.7	▲ 13.5	2.9	▲ 15.8
10~12	▲ 13.2	44.1	▲ 16.2	0.0	▲ 2.8	▲ 18.9
R4.1~3	▲ 15.8	54.3	▲ 19.4	▲ 18.4	▲ 2.9	▲ 31.5
4~6	50.6	75.7	▲ 34.2	▲ 10.6	▲ 5.7	▲ 11.4
7~9	▲ 2.6	80.0	▲ 21.6	▲ 5.3	▲ 11.8	▲ 5.3
10~12	▲ 2.6	77.1	▲ 31.6	▲ 10.6	▲ 10.8	▲ 8.1
R5.1~3	▲ 7.9	71.4	▲ 21.0	▲ 8.1	▲ 5.5	2.6
4~6	▲ 2.6	77.8	▲ 31.6	▲ 2.7	▲ 5.6	▲ 18.4
7~9	▲ 7.8	72.2	▲ 21.0	0.0	2.8	▲ 5.3
10~12見通し	2.6	61.1	▲ 21.0	2.7	2.8	▲ 2.7

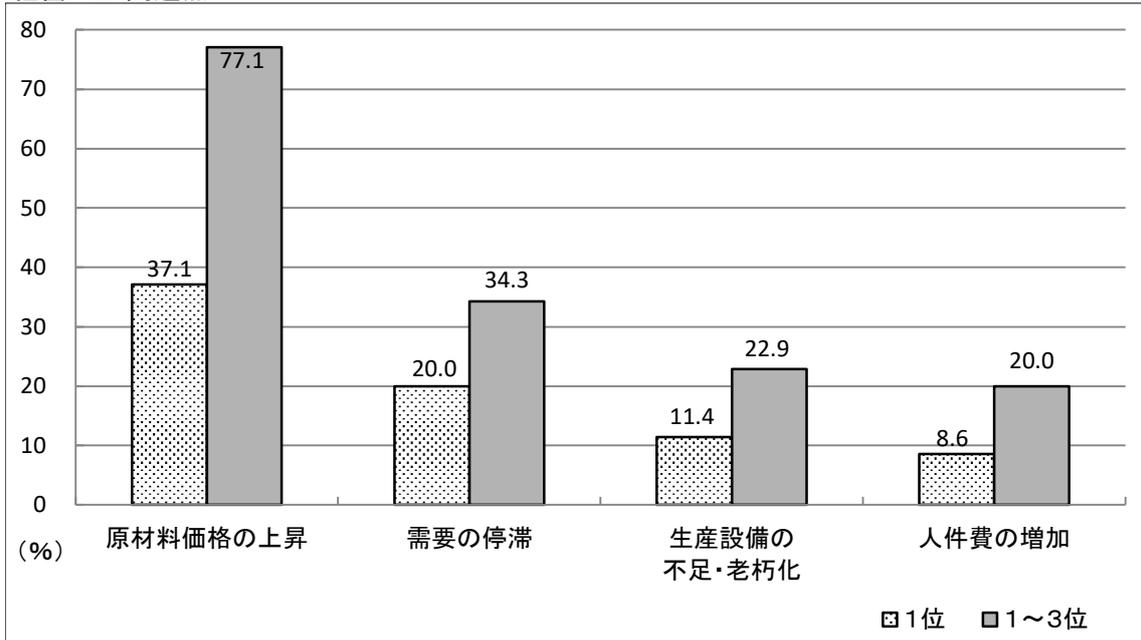
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・原材料の値上げ前の駆け込み需要で一時的な受注があったが、その後の受注の減少が予想されるため、経営的には厳しくなりそうである。
- ・コロナも終わり仕事量も増えたが、仕入単価は増加しておりその分を加工単価へ反映出来るかが今後の課題となる。
- ・加工賃の値上げを依頼し値上げしてもらったが、それ以上に資材賃金の上昇が生じ採算がとれない。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、金属工業でコンベアローラなど土木資材を中心に順調な生産を維持。地場産業でも、眼鏡枠が円安などの影響から輸出を中心に堅調を継続。しかし、繊維工業では非衣料が堅調ながら、衣料は欧州向けで生産調整などから不振となっている。また、主力の電子部品・デバイスは持ち直しているものの、化学が住宅部材などで精彩を欠いているほか、生産用機械も拡大の動きに一服感がみられる。こうした状況を勘案すると、本県製造業はいまだ足踏みの状況から脱し得ない状況といえる。

こうした中、今期（R5年7～9月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目中1項目のみが悪化、残る5項目は改善傾向を示し、先行きに明るさをの覗かせている。各項目の状況をみると、売上高が前期▲2.6→今期▲7.8と悪化、仕入単価（逆指数）が前期77.8→今期72.2へ、採算が前期▲31.6→今期▲21.0へ、資金繰りも前期▲2.7→0.0へと改善した。その他の項目は、従業員数が前期▲5.6→2.8へ、業況が▲18.4→▲5.3へと改善している。先行き（R5年10～12月期）については、2項目で横ばい予測、その他4項目は、いずれも改善予測が建てられている。

一方、新規設備投資の状況については、計画の10.5%に対し実施が23.7%と、順調な投資状況となったが、先行き（R5年10～12月期）については、何らかの投資を予定する企業が7.9%にとどまり、今後は低調な投資状況に陥ると考えられる。

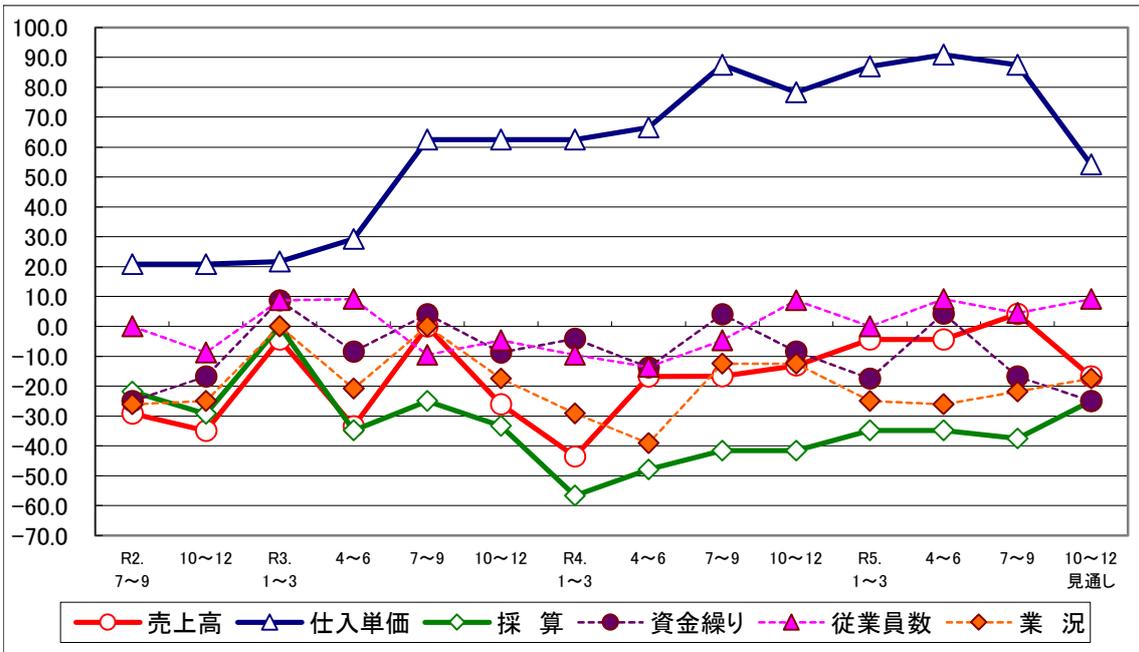
最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「原材料価格の上昇」で最も多く37.1%（1位～3位までに挙げた企業77.1%）と吐出している。個別の見解としては、「原材料値上げ前の駆け込み需要で忙しかったが、この先は反動減が心配」、「仕入単価の増加を売上アップにつなぐことができるかが課題」などの悲観的な声が散見された。

建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

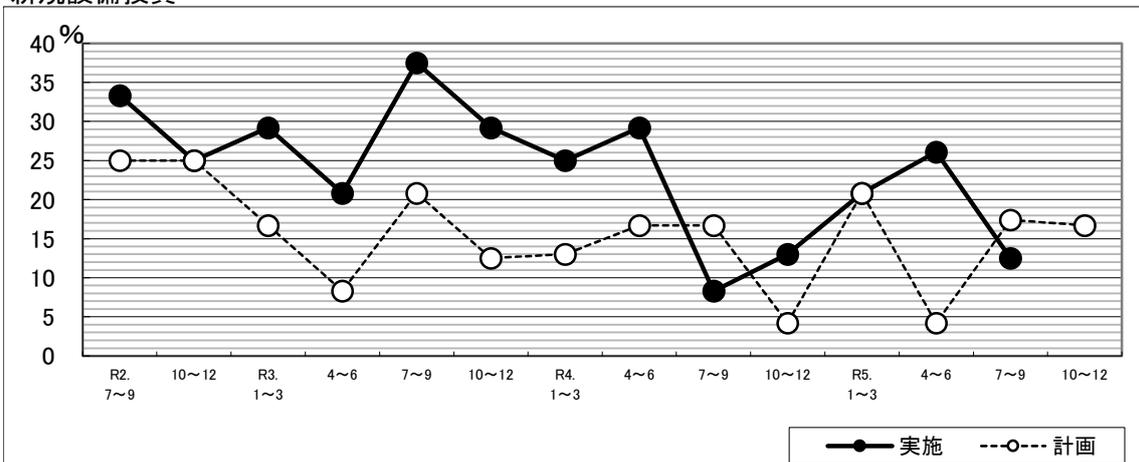
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R2.7~9	▲ 29.1	20.8	▲ 21.8	▲ 25.0	0.0	▲ 26.1
10~12	▲ 34.9	20.8	▲ 29.2	▲ 16.7	▲ 8.7	▲ 25.0
R3.1~3	▲ 4.4	21.7	0.0	8.7	8.7	0.0
4~6	▲ 33.4	29.2	▲ 34.8	▲ 8.4	9.1	▲ 20.8
7~9	0.0	62.5	▲ 25.0	4.1	▲ 9.5	0.0
10~12	▲ 26.1	62.5	▲ 33.3	▲ 8.7	▲ 4.7	▲ 17.4
R4.1~3	▲ 43.5	62.5	▲ 56.6	▲ 4.2	▲ 9.5	▲ 29.1
4~6	▲ 16.7	66.6	▲ 47.9	▲ 13.7	▲ 13.6	▲ 39.1
7~9	▲ 16.6	87.5	▲ 41.6	4.1	▲ 4.7	▲ 12.5
10~12	▲ 13.1	78.3	▲ 41.6	▲ 8.4	8.7	▲ 12.5
R5.1~3	▲ 4.4	87.0	▲ 34.8	▲ 17.4	0.0	▲ 25.0
4~6	▲ 4.4	90.9	▲ 34.8	4.3	9.1	▲ 26.1
7~9	4.2	87.5	▲ 37.5	▲ 16.7	4.5	▲ 21.8
10~12見通し	▲ 16.7	54.2	▲ 25.0	▲ 25.0	9.1	▲ 17.4

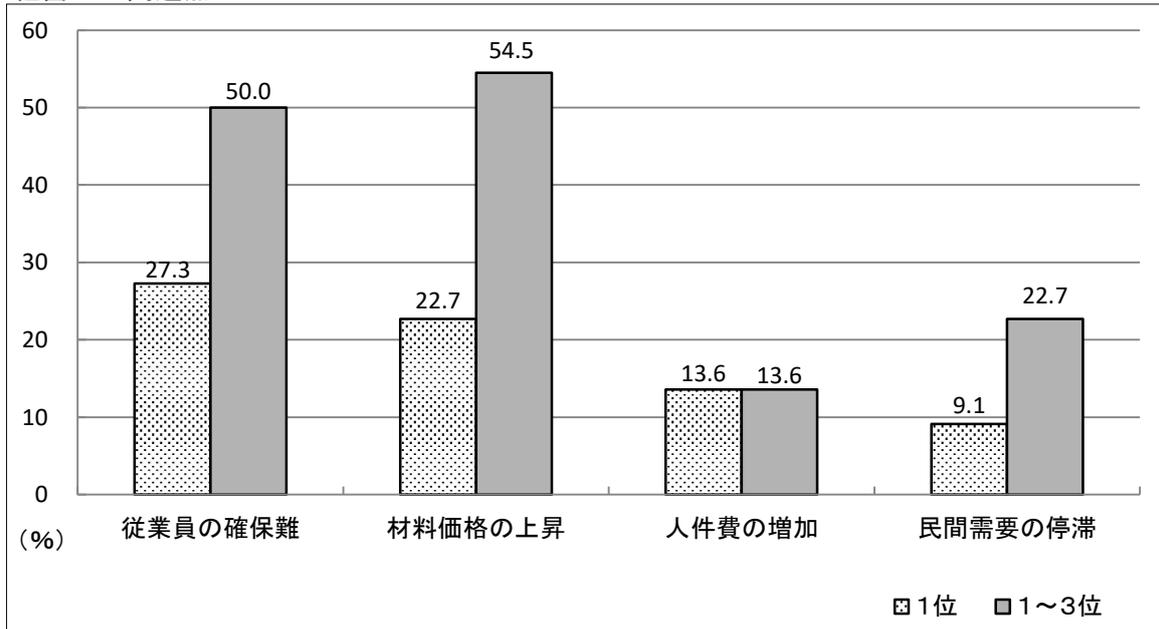
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・現場での使用材料や燃料の値上げが大きい。全く下がる様子がなくこれからも経営の問題になると思う。また、若い従業員が入らず、従業員の高齢化も大問題である。
- ・材料費の価格上昇や経費の増加を無視できない状況が続く中、顧客に対して価格転嫁をお願いしている状況。売上の前年より同水準以上になるが利益は見込めないのが現状である。
- ・県外の需要減によって競合他社が県内に流入しており、受注競争が激しくなっている。

建設業の景況

福井県内におけるR5年度（R5年4～9月期）の建設需要動向をみると、公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）は、請負金額が累計で912億04百万円の前年同期比12.9%の減少、発注件数は同2,170件の同0.6%の増加となっている。これを主な発注者別でみると、市町村関連工事が296億93百万円の前年同期比12.3%増となったものの、その他の工事はほぼ前年割れで、特に独立行政法人等関連工事は136億29百万円の同52.3%減となるなど大きく前期実績を割り込んでいる。一方、住宅投資については、R5年4～8月の累計で、前年同期比6.3%減の1,971戸であった。利用関係別では、主力の持家が前年同期比4.3%減の991戸、貸家が同12.4%減の759戸となっている。住宅業界では、引き続き木材価格の高騰とともに住宅部材の品薄傾向が続いており、今後の住宅投資の下振れには留意する必要がある。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目のうち改善した項目が2項目、悪化が4項目と、やや精彩を欠く結果となった。各項目別のDI値をみると、売上高が前期▲4.4→今期4.2、仕入単価（逆指数）が前期90.9→今期87.5、採算が前期▲34.8→今期▲37.5、資金繰りが前期4.3→今期▲16.7、従業員数が前期9.1→今期4.5、業況が前期▲26.1→今期▲21.8となっている。また、先行き（R5年10～12月期）については、悪化予想が2項目にとどまり、今後の景況に対する業界内での見方は企業間によりバラツキがみられることが予見される。

一方、今期の新規設備投資については、計画した企業17.4%に対し実施した企業が12.5%と精彩を欠く展開となった。ただ、先行き（R5年10～12月期）については、投資計画を持つ企業が16.7%あり、多少の持ち直しが期待される。

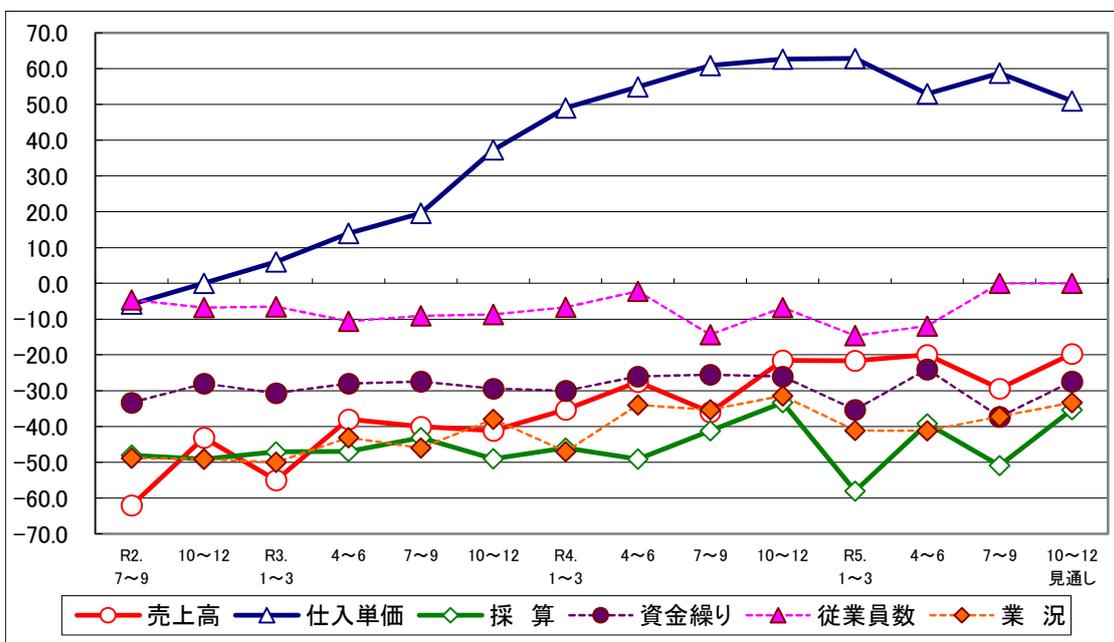
最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「従業員の確保難」で27.3%（1位～3位に挙げた企業50.0%）、次いで「材料価格の上昇」が22.7%（1位～3位に挙げた企業54.5%）となっている。個別の見解としては、「現場での使用材料や燃料の値上げが大きい」、「若い従業員が入らず、従業員の高齢化も大問題」、「県外の需要減によって競合他社が県内に流入している」など多様な課題が浮上している。

小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

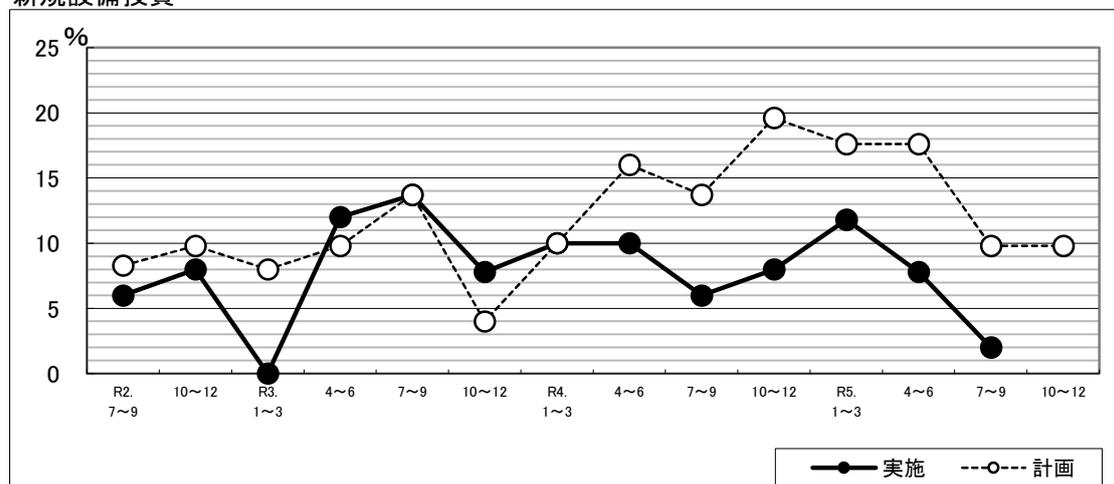
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R2.7~9	▲ 62.0	▲ 5.8	▲ 48.0	▲ 33.3	▲ 4.6	▲ 48.8
10~12	▲ 43.1	0.0	▲ 49.1	▲ 28.0	▲ 6.8	▲ 49.1
R3.1~3	▲ 55.0	6.0	▲ 47.1	▲ 30.7	▲ 6.5	▲ 50.0
4~6	▲ 38.0	14.0	▲ 47.0	▲ 28.0	▲ 10.6	▲ 43.1
7~9	▲ 40.0	19.6	▲ 43.1	▲ 27.4	▲ 9.1	▲ 46.0
10~12	▲ 41.2	37.3	▲ 49.0	▲ 29.4	▲ 8.7	▲ 38.0
R4.1~3	▲ 35.3	49.0	▲ 46.0	▲ 30.0	▲ 6.7	▲ 47.0
4~6	▲ 27.5	54.9	▲ 49.1	▲ 26.0	▲ 2.2	▲ 34.0
7~9	▲ 36.0	60.8	▲ 41.2	▲ 25.5	▲ 14.3	▲ 35.3
10~12	▲ 21.5	62.7	▲ 33.3	▲ 26.0	▲ 6.8	▲ 31.4
R5.1~3	▲ 21.6	62.8	▲ 58.0	▲ 35.3	▲ 14.6	▲ 41.1
4~6	▲ 20.0	53.0	▲ 39.2	▲ 24.0	▲ 11.9	▲ 41.2
7~9	▲ 29.4	58.8	▲ 50.9	▲ 37.3	0.0	▲ 37.2
10~12見通し	▲ 19.7	51.0	▲ 35.3	▲ 27.4	0.0	▲ 33.3

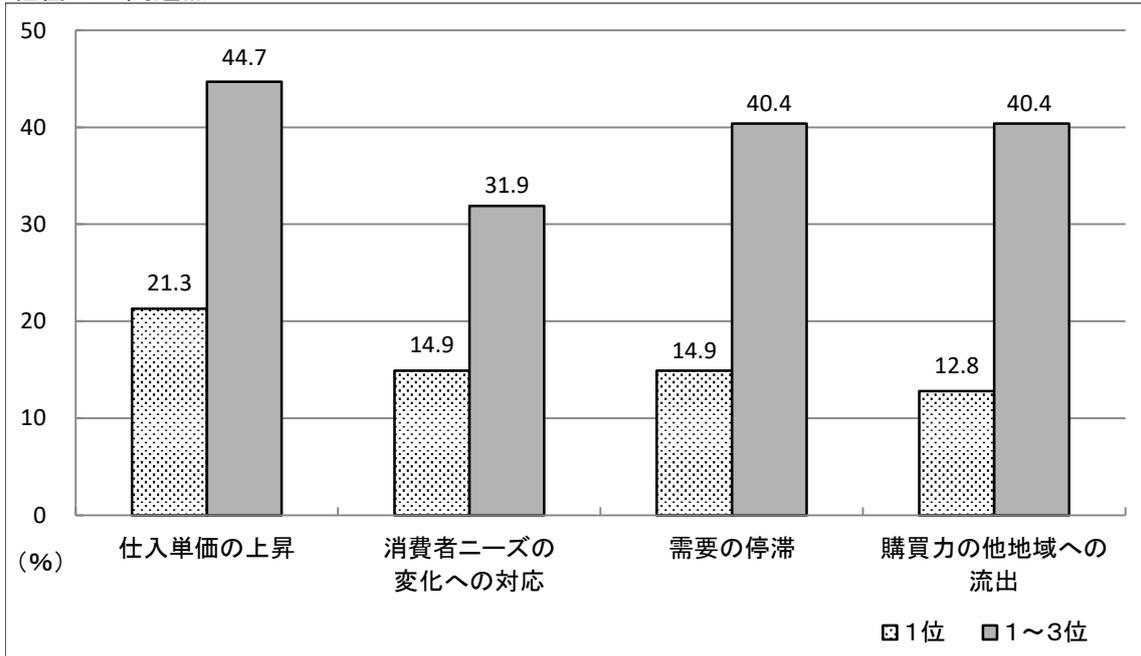
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・ 気温が高く好天が続いた為、水物等が好調で売上上昇している。しかし、人件費、電気料の上昇で利益的には厳しい状況。
- ・ 後継者の問題で引き継ぎがスムーズにいかない。売上向上より利益確保を優先するようになった。
- ・ 価格上昇の為、需要が停滞している。

小売業の景況

最近の小売商況（R5年7-9月期）を概観すると、百貨店・スーパー、ドラッグストアが順調に売上を伸ばす中、ホームセンター、家電量販店、コンビニエンスストアなどでも持ち直しており、県内小売商況は概ね堅調に推移している。また、近畿経済産業局が公表するR5年8月の県内大型店売上高（百貨店+スーパー、全店ベース）（確報値）は、衣料品、家具・家電・家庭用品は不振ながら、身の回り品、飲食料品の荷動きが良く、前年同月比5.5%増（全国9.2%増）の74億73百万円となっている。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目のうち2項目のみが改善傾向を示すなど、持ち直しているとは言え、厳しい景況感を裏付ける結果となった。項目別の状況をみると、売上高が前期▲20.0→今期▲29.4、仕入単価（逆指数）が前期53.0→今期58.8、採算が前期▲39.2→今期▲50.9、資金繰りが前期▲24.0→今期▲37.3、従業員数が前期▲11.9→0.0、業況が前期▲41.2→今期▲37.2となっている。先行き（R5年10-12月期）については、5項目で改善予想が立てられている。

一方、新規設備投資の状況については、今期、計画の9.8%に対し実施が2.0%と低調な推移となった。先行き（R5年10-12月期）については、何らかの投資を計画する企業ウェイトが9.8%となり、引き続き投資マインドの足踏みが予想される。

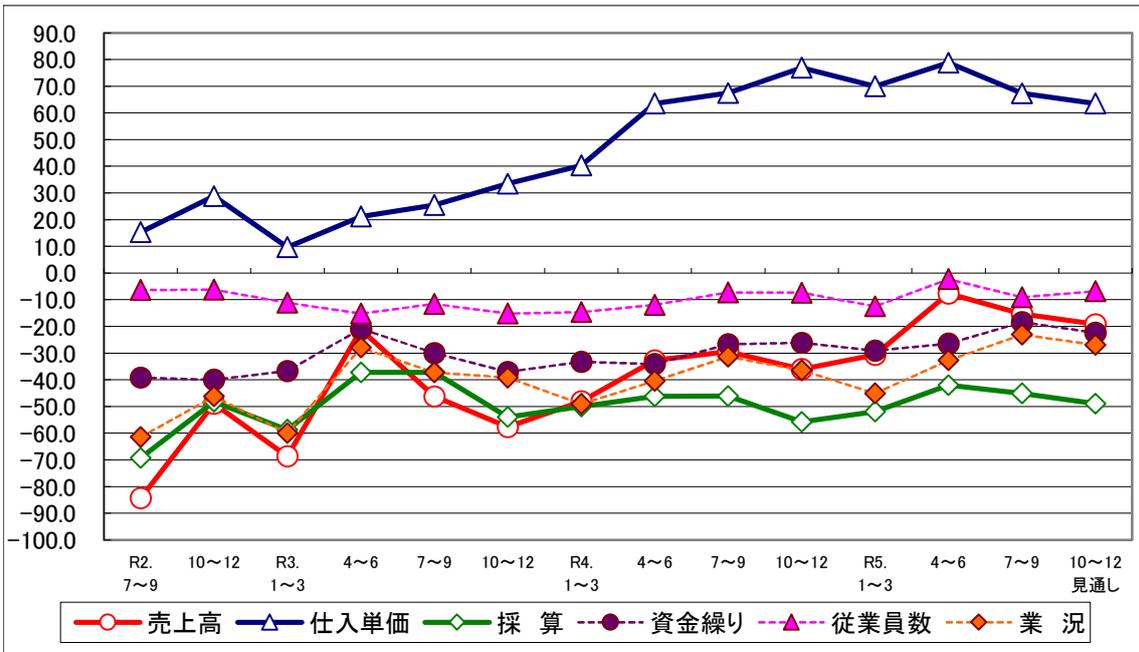
最後に、経営上の問題点については、「仕入単価の上昇」が最も多く、1位に挙げた企業ウェイト21.3%、1位~3位までに挙げた企業44.7%となった。個別の見解としては、「人件費、電気料の上昇で利益的には厳しい状況」、「価格上昇の為、需要が停滞している」、「後継者の問題で事業がスムーズにいかない」など、悲観的な見方が目立っている。

サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

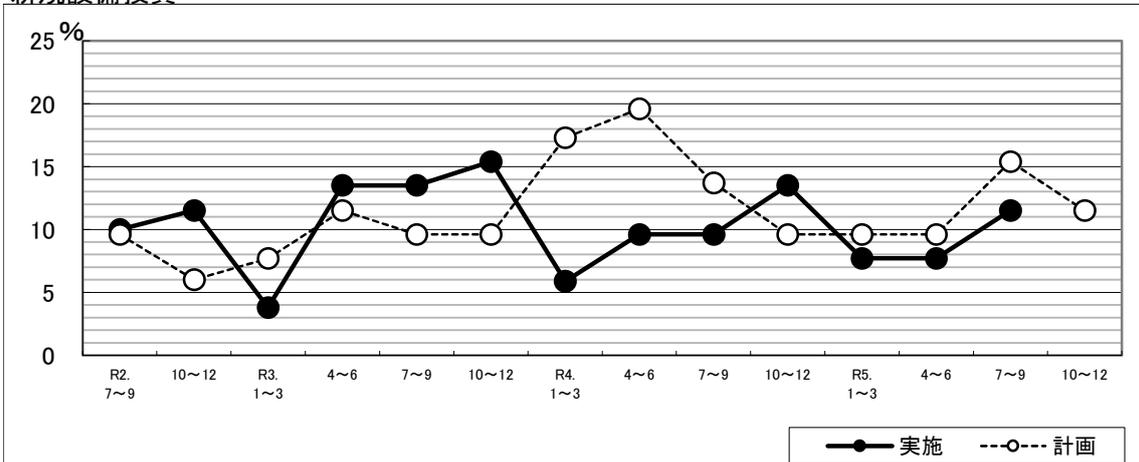
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R2.7~9	▲ 84.3	15.4	▲ 69.3	▲ 39.2	▲ 6.4	▲ 61.5
10~12	▲ 49.0	28.8	▲ 48.2	▲ 40.0	▲ 6.2	▲ 46.2
R3.1~3	▲ 68.6	9.7	▲ 58.8	▲ 36.7	▲ 11.1	▲ 60.0
4~6	▲ 21.2	21.1	▲ 37.3	▲ 20.9	▲ 15.2	▲ 28.0
7~9	▲ 46.2	25.5	▲ 37.2	▲ 30.0	▲ 11.6	▲ 37.3
10~12	▲ 57.7	33.4	▲ 54.0	▲ 37.0	▲ 15.2	▲ 39.2
R4.1~3	▲ 48.1	40.4	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 14.6	▲ 49.1
4~6	▲ 32.7	63.5	▲ 46.2	▲ 34.1	▲ 11.9	▲ 40.4
7~9	▲ 29.4	67.4	▲ 46.1	▲ 26.7	▲ 7.3	▲ 31.4
10~12	▲ 36.0	76.9	▲ 55.8	▲ 26.1	▲ 7.4	▲ 36.5
R5.1~3	▲ 30.7	70.0	▲ 51.9	▲ 29.1	▲ 12.5	▲ 45.1
4~6	▲ 7.7	78.8	▲ 42.0	▲ 26.5	▲ 2.3	▲ 32.7
7~9	▲ 15.3	67.3	▲ 45.1	▲ 18.4	▲ 9.1	▲ 23.1
10~12見通し	▲ 19.2	63.5	▲ 49.0	▲ 22.4	▲ 6.8	▲ 26.9

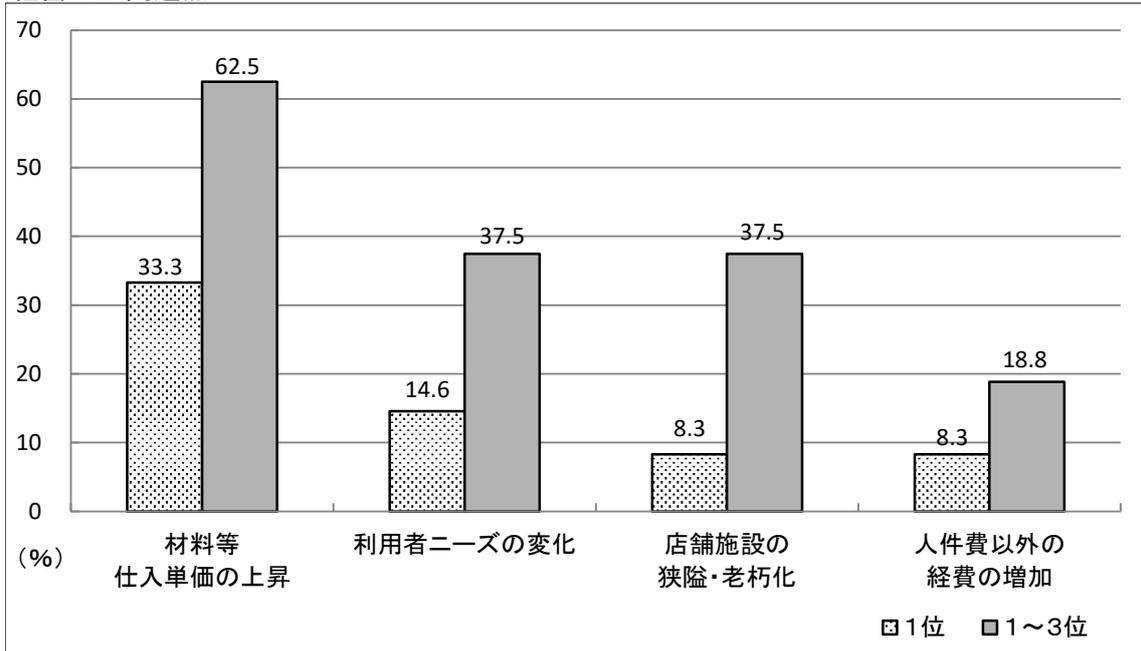
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・特に人手不足が目立ち、そのため客単価を下げて対応しなくてはならなくなった。新幹線開業を控えており、人手不足の対応が必要。
- ・コロナが落ち着きを見せ、お客様も出かける機会が多くなってきた為か、髪に気を遣う方が増えてきた。
- ・全体的に物価が上昇している。今年度は様子見だが、来年は値上げせざるを得ない。

サービス業の景況

経済産業省が毎月公表する「第3次産業活動指数」（R5年8月、季節調整値）をみると、サービス産業（第3次産業）活動指数は、指数値101.8、前月比0.1%減と2か月ぶりの低下となった。これまでの状況を見ると、サービス産業活動は2023年4月、5月が企業間取引の活発化を受け上昇したが、6月は反動減、7月は「運輸業、郵便業」を始め多くの業種が上昇したことにより上昇となった。ただ、8月は前月の上昇の反動により低下となった模様である。同月の業種別動向をみると、大分類業種の内訳では、11業種中、運輸業・郵便業など5業種が低下、生活娯楽関連サービスなど5業種が上昇、小売業が横ばいとなっている。

こうした中、今回の景況調査をみると、DI値6項目中3項目が改善、3項目で悪化となった。項目別の指数は、売上高が前期▲7.7→今期▲15.3、仕入単価（逆指数）が前期78.8→今期67.3、採算が前期▲42.0→今期▲45.1、資金繰りが前期▲26.5→今期▲18.4、従業員数が前期▲2.3→今期▲9.1、業況が前期▲32.7→今期▲23.1となっている。また、先行き（R5年10-12月期）についても、4項目で悪化予測が立てられており、今後の見通しは暗い。

一方、新規設備投資については、計画15.4%に対し実施が11.5%となり、実施が計画を下回っている。先行き（R5年10-12月期）については、何らかの投資を考える企業ウエイトが11.5%となり、依然、投資マインドは厳しい。

最後に、経営上の問題点については、前回同様、「材料等、仕入単価の上昇」（1位に挙げた企業ウエイト33.3%、1位～3位までに挙げた企業62.5%）への指摘が最も多かった。個別の見解としては、「人手不足が目立ち、そのため客単価を下げて対応しなくてはならなくなった」、「物価が上昇している。今年度は様子見だが、来年は値上げせざるを得ない。」など、厳しい経営環境を訴える声が目立っている。

全国・福井景気動向 令和5年7月～9月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～ -40	-40.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 1.5	76.5	▲ 26.1	▲ 14.1	▲ 3.7	▲ 16.4
	製造業						
	DI値	▲ 5.0	78.2	▲ 21.9	▲ 13.8	▲ 2.1	▲ 15.4
	建設業						
	DI値	▲ 15.1	79.2	▲ 26.9	▲ 11.4	▲ 5.8	▲ 15.6
	小売業						
	DI値	▲ 12.6	72.9	▲ 35.0	▲ 21.1	▲ 3.2	▲ 29.0
福井	サービス業						
	DI値	14.0	75.8	▲ 21.5	▲ 10.1	▲ 3.8	▲ 5.6
	全体						
	DI値	▲ 17.0	68.7	▲ 40.2	▲ 19.8	▲ 1.4	▲ 23.2
	製造業						
	DI値	▲ 7.8	72.2	▲ 21.0	0.0	2.8	▲ 5.3
	建設業						
	DI値	4.2	87.5	▲ 37.5	▲ 16.7	4.5	▲ 21.8
小売業							
DI値	▲ 29.4	58.8	▲ 50.9	▲ 37.3	0.0	▲ 37.2	
サービス業							
DI値	▲ 15.3	67.3	▲ 45.1	▲ 18.4	▲ 9.1	▲ 23.1	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。